

歴史と文化の街 教育の街 岡崎



岩津高等学校長
熊谷 誠人 氏

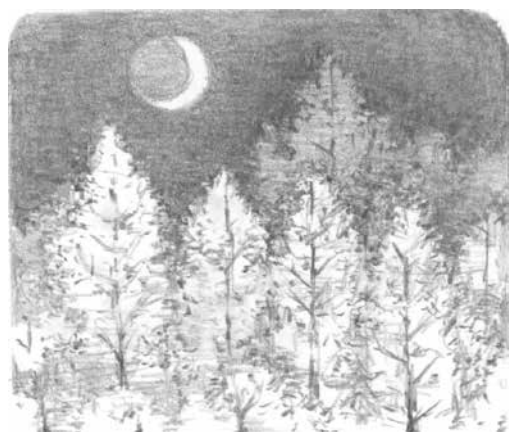
教育随想

私が生まれたのは、今の八帖北町でした。三歳の頃には子犬を追いかけて八丁味噌の辺りまで行った（つまり信号のない国道一号線を幼児が横切った）というのですから、時代の違いを感じずにはられません。

私は平成二十年から五年間、出向して県庁の県史編さん室に勤務しました。私が担当したのは近代の文化史の編纂でしたが、その過程で改めて感じたのは「岡崎は歴史と文化の街だ」ということでした。近代史に限ってみても、市制の施行は県で三番目、また『日本風景論』を著した志賀重昂らの学者を輩出し、若き尾崎士郎は旧制岡崎中学校（現岡崎高校）に通っていました。愛知県史の調査では康生通のみどり屋さんに伺って、松井家文書を拝見しましたが、松井弘氏が収集された文化関係資料の豊富さと

質の高さに驚きました。家康公の生誕と天下統一への歩みという大きな史実だけでなく、岡崎はずっと歴史と文化の薫り高い街でありました。

そしてまた、岡崎は教育の街でもあります。前述したように尾崎士郎は上横須賀村（吉良町）からわざわざ岡崎中学校に入学します。その岡崎中学校は県立第二中学校、つまり県下で二番目の中学でした。また岡崎北高校の前身は明治四十年に開校した町立高等女学校であり、私の勤める岩津高校も創立は昭和十年にまで遡ります。旧制中学や高女に子弟を進学させられる経済力があつたことに加え、岡崎には学問を尊ぶ気風があつたと言えます。他にも岡崎師範学校（愛知第一師範）があり、これが戦後に愛知学芸大学となったときの講師には城山三郎がいました。城山は



酔って菅生川で泳ぎ、濡れかけたことがあつたと語っています。

そんな豊かな歴史と文化的な資産に溢れた街岡崎、教育を尊ぶ街岡崎。この街の魅力がより広く知られ、次の世代に受け継がれていくことを、岡崎の一ファンとして願っています。

（くまがい まこと）



平成 30 年 12 月 1 日

12 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
岩津高等学校長
熊谷 誠人 氏
- この人に聞く…………… 2
片付け講師
香村 薫 氏
- 羅針盤…………… 2
奥殿小学校長 内藤 隆之
- ふれあい…………… 3
六名小学校 安藤 翔太
- 特集…………… 4
地域の元気の素
千万町楽校
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
紅白幕に飾られた学芸会
(昭和 7 年)
- この本を…………… 8



ほどよく減らし ほどよく暮らし これってどういうこと

片付け講師

香村 薫氏

「モノを大切にするといいのは、ずっと持っているということではありません。使うということも大切にしていることなのです。それが分かれば、モノがあふれて片付けられない、捨てられないと困る大人にはならないと思います。」

香村氏は自身の経験からこう語る。家事にかかる時間の無駄を減らし、自由な時間のある豊かな生活を送りたい。その思いから片付けを始めた。「一つモノを捨てました。すると、掃除時間が短くなったのです。これはいいと思っています。いろいろなモノを捨て、

半年で家の中が空っぽになりました。何もない家は家事も楽になり、快適なはずでした。でも、気が付くと、家の中で過ごすことに楽しみを見出せなくなっていました。」
このままでいいのかと、夫婦で今後の生活について百時間以上も話し合ったという。

「二人で片付ける方法を考えました。そのとき仕事と違って片付けるとよいことに気がきました。計画書を作り、年間目標を立てました。予算も立て、家事を見える化したのです。」
トヨタグループに勤めていた香村夫妻は、トヨタ式の考えを生かした。「仕事では当たり前だった在庫管理を家庭に置きかえてみたら、モノのほどよい量が見えてきました。例えば、家の中のタオルを数えて家族に必要な数について議論しました。我が家に必要な、ほどよい量を決めると、全てのタオルを大切に使い切る事ができるようなったのです。」

どんな生活を送りたいか、大切にしたいものは何かを具体化すると、モノのほどよい量がつかめるそう。モノを数字で管理することが片付けのポイントであるという。そして、片付いた状態を保つためには、そのための仕組みづくりが必要だと語る。「子供に対して『片付けなさい』という言葉は意味がありません。『上

から二段目の引き出しに入れよう』という具体的な仕組みをつくる事がポイントです。このとき、子供の背が届かない、では仕組みができていません。カイゼンが必要です。これが絶対というものはないので、常に仕組みを見直し、カイゼンを考えていく必要があります。」

よりよい仕組みづくりのためには『人を責めるな 仕組みを責めろ』という考え方が大切だという。

「徹底するのもあまりよくありません。ほどよい感じがいいと思います。だめなら他の方法を考えよう。」
香村氏のもとには、モノを片付けられず、困っている方からの相談が次々と寄せられる。必要なモノがほどよくあり、ほどよく心が満たされる暮らしを多くの人が実現できるために役立ちたいと、著作や講演活動などにも精力的に取り組んでいる。



氏名 香村 薫
住所 岡崎市葵町

目的・目標を共有する

奥殿小学校長

内藤 隆之

一年生がお楽しみ会で何をやるかの話し合いをする。多くの候補が出てくる。これをどうまとめるかと楽しみにしていると、担任の先生は「みんな なかよく、えがおで」と書かれたためあてを読ませる。目的を共有することで、一年生でも折り合いをつける話し合いが成立する。

運動会や学芸会などの学校行事をする。子供たちに会の目的や目標を伝え指導するのは担任の先生だ。もちろん、その学年に応じた言葉で伝えるなければならない。担任の先生が子供たちに何をどう伝え、指導したかは、行事の成果を左右する。担任の先生の力は大変大きい。

毎年行われている行事は、どうしてもその目的や目標が疎かになりやすい。何のためにそれをやるのか、





動き出す力

六名小
安藤 翔太

A子は、自分の考えや思いをしっかりともっている。その思いを書くことはできるが、「完璧に言えなければいけない」という思いが強く、授業中の発言はほとんどなかった。

ある日、自主的に英語を学習してきたA子に声をかけると、「英語にとっても興味がある。」と答えた。

A子はいつも発音練習を大きな声で進んで行く。だが、会話活動になると、「間違えると恥ずかしい」という思いが先行し、「とたんに自信のなさそうな表情を浮かべ、相手の目を見るのができなくなってしまう。」

「rの発音、上手だったよ。」

授業後、下を向くA子に伝えると、少しだけほほえむ。何とか自信をもってほしいと、その後も励まし続けたが、残念ながらあまり変化は見られなかった。

そんなとき、ある日の授業で、十名のALTたちと英語で会話をする授業を行うことを子供たちに伝えた。すると、A子は今までにない表情を見せ、「ALTの先生と話したい。」

と興奮気味に語った。A子は「自分の英語がどれくらい通じるか思う存分試してみたい」という気持ちを以前からもっていたようだ。しかし、しばらくするとA子は、再び不安げな表情を浮かべた。私は、

「A子なら大丈夫だよ。発音もきれいだし、伝えようとする気持ちがあれば必ず伝わるよ。」

と背中を押しした。この機会を、どうしてもA子の自信につなげたいと思った。

その日に、ALTと会話できるように会話練習の授業を行った。そこでは、単語だけでもよい、伝えようとする気持ち、相手の言うことを分かるようにする気持ちが大切であると再び伝えた。

初めは口を閉じ、下を向いていたA子が、意を決したように顔を上げ、口を開いた。そして、初めて相手の目を見て、身ぶり手ぶりを使って会話をした。「伝えたい」という気持ちが、間違えると恥ずかしいという気持ちを越えた瞬間だった。

「A子、相手の目を見て話せたね。とてもいい表情だったよ。」

と褒め、A子のペアを模範として前に出した。クラスの子供たちは、発音の美しさだけでなく、うれしそうに話す表情を称賛した。A子は、恥ずかし

がりながらも笑顔を見せた。さらに、「相手の目を見てがんばって話したら、伝わった感じがした。」と授業後に感想を伝えてくれた。

ALTたちとの授業では、生き生きと話すA子の姿があった。自ら話しかけ、ジェスチャーを交えて一生懸命伝えようとする姿には、喜びがあふれていた。振り返りカードには、「自分の英語が友だちや海外の人にも通じてとてもうれしかった。自信になった。」

と記されていた。思いを伝える楽しさ、通じ合える喜びを感じてくれたことが私は本当にうれしかった。

この日以降、A子は英語ばかりでなく、様々な授業で自分の思いや考えを積極的に伝えられるようになった。



それをするとうなるのかを、毎回学年に応じてしっかり指導したい。子供たちに分かる言葉で伝えようとする、自分が分かっていることではないことに気付く。教員の側の共通理解がとても大切なのだ。職員会が、内容の協議はかりでなく、目的、目標を確認する場になることを願う。

さらに、保護者や地域の人たちにも、目的や目標を共有してもらうことができれば、子供たちの活動がまた違ってくる。学級・学年通信、学校便りなどを利用して伝えることももちろん重要であるが、私は、PTA総会や各行事の挨拶などで、直接、保護者や地域の人たちに目的や目標を伝えるようにしてきた。

奥殿小学校では、授業研究の際、指導案の検討を教員全員で行う。全員が校長室に入って検討会ができる人数だからではあるのだが、これを行うことで、授業後の協議会での先生たちの発言内容が変わってくる。授業者が何を考え、どう困っていたかを、参観者全員が知っているからこそ、授業をより焦点化して観ることができると考える。

物事がややこしくなったとき、一度立ち止まり、シンプルに目的・目標に立ち戻ってもらう一度考えてみる。すると、光が見えてくることが多い。

地域の元気の素 千万町楽校



▲ 12月恒例の餅つき

千万町楽校は、平成二十二年三月に閉校した千万町小学校跡地を利用した、千万町町・木下町の、ふるさと活性化の拠点である。「千万町・木下ふるさとづくり委員会」が中心となって、多くの人々が集い、笑顔があふれる地域になるように、さまざまな活動をしている。

千万町楽校では、水も空気も美しい豊かな自然を「山里のお宝」とし、年間を通して、山里ならではの体験や味覚を楽しめる魅力あふれるイベントを企画運営している。

林業家として地域の仕事づくりを目指す人や、千万町楽校で作品展や体験教室を開催する芸術家たちなど、山里に魅力を感じて、市街地から移り住んでくる人たちがいる。また、週末には農業を楽しむにやってくる人もいる。

旧千万町小学校学区では、千万町楽校でのさまざまな活動により、地域が活性化され、住民にとって元気の素となる役割を担っている。さらに地域内外の人々の輪をも広げている。

千万町楽校を支える組織

<運営団体>

千万町・木下ふるさとづくり委員会
じさんじよの会

<外郭団体>

HAPPY PUNCH (週末農業を楽しむ会)
里山樹働隊 (森林の再生と地域の仕事づくりを考える会)
山里の芸術家 (創作のかたわら作品展と体験教室を開催する集まり)



▲ 閉校した小学校の活用



▲ 旧学区民による千万町楽校運動会



▲ ふるさとの活性化について熱く語り合う会



▲ いきいきサロンひだまりの活動

交流の拠点として 地域外の人々との活動



▲ 市外からも人が集まる流しそうめん



▲ ジャズライブ in 千万町楽校



▲ ジビエ（野生鳥獣の食肉）バーベキュー



▲ 山の小さな音楽会 in 千万町楽校



▲ 芸術家による作品展や体験教室



地域に根づいた活動

▲ 週末農業を楽しむ団体「HAPPY PUNCH」

今後もどんどんそういう人が増えてくれることを願い、地域住民で協力して活動を続けていきたいです。



「じさんじよの会」は、地域づくり活動を展開してきた自主的・自発的組織です。現在は「千万町・木下ふるさとづくり委員会」の「地域づくり部会」として、地域外の人々との交流とつながりを創生する催しを企画運営しています。
八年前から週末農業を楽しむ若者たちは、ここを第二の故郷として地域に溶け込み、夏祭りや「じさんじよの会」主催のイベントで活躍してくれています。また、林業がやりたいと夫婦で移り住み、会社を立ち上げて、地域の仕事づくりをしている若者もいます。この会社は乙川に建設中の人道橋用のヒノキ材の出荷もしています。



▲ 「里山樹働隊」(代表:唐澤氏) ▲ 間伐材の除去作業

＜千万町楽校住所＞

〒444-3432 岡崎市千万町町字宮西8

読み方
豆知識

千万町楽校（ぜまんじょうがっこう）
千万町町（ぜまんぢょうちょう）
木下町（きくだしちょう）

※ 仮名づかいや読み方が特徴的である。豆知識として覚えておきたい。



●教育最新情報

◆第四十六回教育文化賞

選考委員による厳正な審査の結果、個人1点、団体2点が受賞した。

（個人）

今村 直美 氏

感性豊かな表現力を育む俳句指導の継続

（団体）

岡崎市立三島小学校

岡崎盲学校との学校間交流



▲教育文化賞

を中心とした福祉教育の推進
岡崎市立形埜小学校

乙川水質調査と環境保全
活動の推進

○授賞式 記念講演

十一月十日（土）に岡崎市総合学習センター大ホールで授賞式が行われた。授賞式後、「四季の会・秋研修会」と兼ねて、野球評論家の山崎武司氏を招き、記念講演会を開催した。



●表彰

◆統計グラフ全国コンクール

- 第一部（小学校一・二年生）
佳作 連尺小 長谷 祐真
- 第二部（小学校三・四年生）
入選 竜美丘小 北島 悠
入選 竜美丘小 坂下 穂花
- 第三部（小学校五・六年生）
入選一席 竜美丘小 山本 結月
○パソコン統計グラフの部
佳作 竜美丘小 小西 兜斗
佳作 甲山中 伊藤 碧人

◆第62回愛知県統計グラフコンクール

○パソコン統計グラフの部

- 金賞 竜美丘小 古田 尊一
- 金賞 竜美丘小 小西 兜斗
- 金賞 甲山中 伊藤 碧人
- 銀賞 河合中 畔柳 愛海
- 銀賞 河合中 藤井 仁悟

- 銀賞 河合中 蜂須賀咲来
- 浅井 翔・蒲野 武琉
- 銀賞 新香山中 草野 楓太
- 銅賞 新香山中 岩佐 晏弥
- 銅賞 新香山中 壁谷 直人
- 銅賞 新香山中 小林由梨奈
- 銅賞 新香山中 鈴木 羽子

○第一部（小学校一・二年生）

- 金賞 三島小 太田 幸希
- 金賞 連尺小 長谷 祐真
- 銀賞 三島小 池田 葵
- 銀賞 連尺小 横井 心菜
- 銅賞 三島小 鎌田 結愛
- 銅賞 三島小 徳山 宝

○第二部（小学校三・四年生）

- 金賞 三島小 判治 直哉
- 金賞 竜美丘小 北島 悠
- 金賞 竜美丘小 林 彦利
- 金賞 竜美丘小 山崎 聖女
- 金賞 竜美丘小 坂下 穂花
- 銀賞 竜美丘小 小野内志帆
- 銀賞 竜美丘小 無笹 陽月
- 銀賞 井田小 青山 怜央
- 銅賞 井田小 石川 有咲
- 銅賞 連尺小 西池 遥
- 銅賞 井田小 内田 葵

○第三部（小学校五・六年生）

- 金賞 竜美丘小 伊藤 史華
- 金賞 竜美丘小 林 美晃
- 金賞 竜美丘小 山本 結月
- 金賞 竜美丘小 野田 一翔
- 金賞 小豆坂小 梅澤ももか
- 銀賞 梅園小 伊藤 慧悟
- 銀賞 竜美丘小 宮永 栞那
- 銀賞 連尺小 山田 華凜
- 山田 華凜
- 山田 華暖
- 判治 徹哉
- 林 寛翔
- 山本 愛結
- 鈴木 結捺
- 土井 隆仙
- 荻野 碧
- 荒川 琴音

○第四部（中学生）

- 銅賞 竜美丘小 荒川 琴音
- 金賞 竜海中 判治 孝哉
- 金賞 竜海中 山本 愛結
- 金賞 竜海中 手寫咲美子
- 金賞 南中 瀧澤 茉緒
- 金賞 南中 佐野 文香
- 金賞 城北中 永田 愛
- 銀賞 南中 吉見 千彩
- 銀賞 東海中 鈴木 萌加
- 銀賞 東海中 野澤 知世
- 銅賞 甲山中 加島 光稀
- 銅賞 甲山中 兵藤夏恋彩
- 銅賞 南中 中西 碧
- 銅賞 東海中 富田 海里
- 銅賞 東海中 鈴木 渚沙
- 鈴木 彩渚・鈴木 渚沙

○統計グラフ指導者表彰（個人）
河合中 小辻 智之

○統計グラフ教育指導者表彰
岡崎市現職研修委員会
算数・数学部会

◆第25回愛知県中学生力又一大会新人戦
○カナデアン二人乗り男子
二位 新香山中
市川虎之介・筒治 歩夢

○カナデアン一人乗り男子
優勝 新香山中 中山 竜一
二位 新香山中 筒治 歩夢

○カヤック一人乗り女子
優勝 新香山中 鈴木 彩音
二位 新香山中 後藤あいみ
三位 新香山中 荒井 悠那

○カヤック二人乗り女子
優勝 新香山中
荒井 悠那・後藤あいみ
二位 新香山中
鈴木ひろみ・鈴木 彩音

○カヤック四人乗り女子
優勝 新香山中

○女子総合
優勝 新香山中学校

○男子総合
三位 新香山中学校

○男女総合
優勝 新香山中学校
銅賞 大門小「情熱大門18」

第51回 岡崎市中学校新人総合体育大会

種 目	性	優 勝	第2位	第3位
陸 上 競 技	男子	六ツ美	竜 海	福 岡
	女子	六ツ美北	矢作北	矢 作
バスケットボール	男子	葵	矢作北	北
	女子	甲 山	福 岡	六ツ美北
バレーボール	男子	矢 作	新香山	矢作北
	女子	矢作北	新香山	翔 南
ソフトテニス	男子	矢 作	城 北	翔 南
	女子	矢 作	六ツ美北	竜 海
卓 球	男子	甲 山	竜 海	矢作北
	女子	新香山	北	南
新 体 操	女子	碧南市立新川中	東 海	碧南市立南中

種 目	性	優 勝	第2位	第3位
剣 道	男子	葵	常 磐	北
	女子	矢 作	六ツ美北	竜 海
ハンドボール	男子	竜 南	葵	六ツ美
	女子	美 川	高浜中	美 川
軟 式 野 球	男子	矢作北	福 岡	城 北
ソ フ ト ボ ー ル	女子	甲 山	矢作北	北
柔 道	男子	矢 作	矢作北	葵
	女子	矢 作	甲 山	竜 南
サ ッ カ ー	男(女)	竜 海	矢作北	福 岡
弓 道	男子	幸田北A	幸田A	額田A
	女子	幸田南A	幸田A	幸田南C
水 泳	男子	葵	甲 山	矢 作
	女子	矢 作	六ツ美北	矢作北

個人競技（1位記録のみ）

水 泳

種 目	男 子			女 子		
	氏 名	学 校	記 録	氏 名	学 校	記 録
50m自由形	大河原英登	甲 山	27"14	伊東 奏音	岩 津	30"22
100m自由形	永井 旭	矢作北	1'00"71	和田佳奈子	葵	1'03"75
200m自由形	小林 夢翔	竜 南	2'09"72	片山 琴葉	甲 山	2'18"31
50m平泳ぎ	谷 一輝	矢作北	★32"27	田村 涼乃	矢 作	★36"32
100m平泳ぎ	杉浦凜汰郎	竜 南	★1'07"55	内山 遥陽	六ツ美北	1'19"94
50mバタフライ	加藤 遼馬	甲 山	★28"26	石田 優依	矢作北	32"34
100mバタフライ	太田 愛琉	矢 作	1'04"56	稲吉 爽	葵	1'11"94
50m背泳ぎ	大崎 湧斗	附 属	31"47	西村 優奈	福 岡	★32"74
100m背泳ぎ	朝倉 悠斗	甲 山	★1'05"87	伊藤 杏	矢 作	1'19"78
200m個人メ	山崎倅太郎	葵	2'21"66	菅原 結奈	城 北	2'39"95
4×100m R	大河原 朝倉 加藤晴 加藤遼	甲 山	★4'00"42	進 田村 宮島 水越	矢 作	4'34"81
4×100m メドレーリレー	朝倉 加藤晴 加藤遼 大河原	甲 山	★4'24"78	水越 田村 宮島 進	矢 作	5'02"68

★印は大会新記録 タイは大会タイ記録

柔 道

男子	氏 名	学 校	女子	氏 名	学 校
軽量級	高橋遥瑠大	矢作北	軽量級	黒木 悠里	矢 作
軽中級	作田 晴空	附 属	軽中級	俊 玲衣香	矢 作
中量級	竹市 裕亮	東 海	中量級	榊原 美月	甲 山
重量級	福田 暁	矢 作			

陸 上

性	種 目	氏 名	学 校	記 録
男 子	100m	高倉 昂生	竜 海	11"77
	200m	阿部 泰典	矢作北	24"73
	400m	梅崎 暖翔	北	57"52
	800m	早川 恭介	岩 津	★2'07"82
	1500m	杉田 晃大	竜 海	★4'25"72
	3000m	天野 啓太	翔 南	9'52"16
	110m H	瀧村 蓮	矢 作	★16"07
	4×100m R	大瀨・高倉 林・志水	竜 海	47"25
	走 幅 跳	小林 海渡	六ツ美北	5m73
	走 高 跳	伊豫田 隼	城 北	★1m70
女 子	砲 丸 投	西本 飛琉	六ツ美	8m68
	棒 高 跳	神谷 捷斗	矢 作	★2m90
	100m	林 美希	翔 南	13"37
	200m	片山 心菜	城 北	26"96
	800m	棧敷真菜美	六ツ美北	2'24"48
	1500m	壁谷 裕奈	竜 海	★4'45"74
	100m H	森田 琉水	矢作北	15"76
	4×100m R	澤木・羽賀 福田・神戸	矢 作	52"82
	走 幅 跳	森田 玲那	矢作北	4m68
	走 高 跳	鈴木 菜美	六ツ美北	★1m55
砲 丸 投	鈴木 彩香	城 北	9m33	

★印は大会新記録

平成30年度岡崎市小学校球技・水泳大会

種 目	性	優 勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子	六ツ美南	梅 園	六ツ美西
	女子	広 幡	梅 園	矢作東
バレーボール	男子	矢作南	大 門	矢作東
	女子	井 田	矢作北	細 川
バスケットボール	男子	美 合	大 門	男 川
	女子	福 岡	竜美丘	井 田
サ ッ カ ー	男女	常 磐	竜美丘	六 名

種 目	性	優 勝	第2位	第3位
水 泳	北ブロック	男子	広 幡	井 田
		女子	矢作西	根 石
	南ブロック	男子	上 地	福 岡
		女子	竜美丘	羽 根



・カ
ツ
ト
福
岡
中
山
田
周

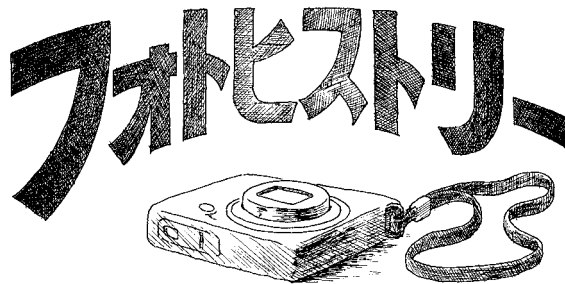
紅白幕に飾られた学芸会 (昭和7年)

写真提供：矢作西小学校

舞台の上で先生のオルガンに合わせ、そのいの衣装でダンスを披露する子供たち。指先まで気持ちの行き届いた演技や、背筋をまっすぐに伸ばして見ている子供たちの後ろ姿からは、心地よい緊張感が感じられる。写真は、矢作西小学校での学芸会の様子である。

明治三十五年頃から、小中学校で学芸会が広く実施されるようになった。岡崎市では、学年で音楽や劇に取り組む学校、学区の偉人の業績を劇化する学校、学習発表会と名称を変え、学習のまとめとして発表する学校など独自の取り組みが見られた。また平成八年頃からは、行事の精選や子供の健康面への配慮から二期に開催する学校が増えていった。

様々な変遷はあるが、子供が感性を働かせ、演技を練り、観客と感動を共有する活動に大きな意義を感じ、今も多くの学校で続けられている。



冬至まであとわずか。いよいよ長距離走の季節がきた。長距離走は自分との闘いだ。自分を奮い立たせ、苦しくても諦めず、自分を信じて一歩一歩、前へ前へと進む。日々の指導も同じ。苦しいときも諦めず自分に子供を信じて一歩一歩、前へ前へ。

と ホ ツ

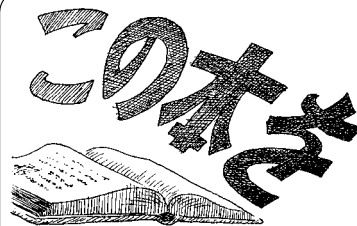
師 走



マラソン(長距離走)で(北中)

「伝えたい」という思いを高めたことで動き始めたA子。A子は今まで心に留めていた思いをあふれさせ、今後も生き生きと学んでいこう。

子供が本来もっている「成長したい」という気持ちを出せるよう、心に火をつけられる教師でありたい。



* AI VS教科書が読めない子どもたち 新井 紀子
東洋経済新報社 ¥1,500

心に残った一文

AIにできない仕事人間にはできるのか？

「AIが進化し、シンギュラリティが到来することで世界が激変する。」この予測を著者は否定している。確かに技術革新はめざましく、AIの進化によって今ある多くの職業が不要になると言われている。真偽は別として、それよりも日本の中高生の多くは教科書の文章を正確に理解できていないというデータの方が心配になった。昔は「読み」「書き」「そろばん」とよく言ったが、ICTが活用されている今でも基礎基本をいかに学ばせ身につけさせるか、時代の流れに翻弄されないようにしたい。今後もAIは進化し続けるが、教職はAIに取って代わられることはないようなので多少安堵した。

* 日本の教育格差 橋本 俊詔 ¥840
岩波新書
* 発達障害 岩波 明 ¥820
文春新書
* なぜAmazonは「今日中」にモノが届くのか 林部 健二 ¥1,800
プチ・レトル
秦梨小 太田 幹雄